

神奈川県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

聖マリアンナ医科大学病院

てんかんセンター 顧問 山本仁 副センター長 太組一朗

1. 神奈川県における拠点機関としての取り組み

聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンターは2017年10月の開設より2年が経過し、神奈川県のでんかん医療を担う中核的な施設として県内に広く認知されつつある。整備事業が本事業へ移行した2018年度より、聖マリアンナ医科大学病院はてんかん診療拠点機関として指定を受け、院内、院外含め神奈川県全体としての診療体制を整備することに努めてきた。

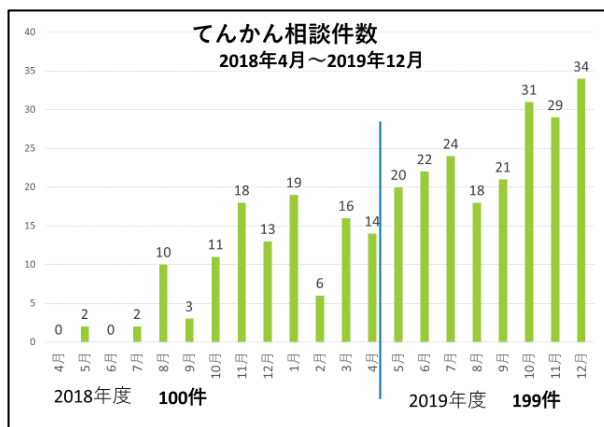
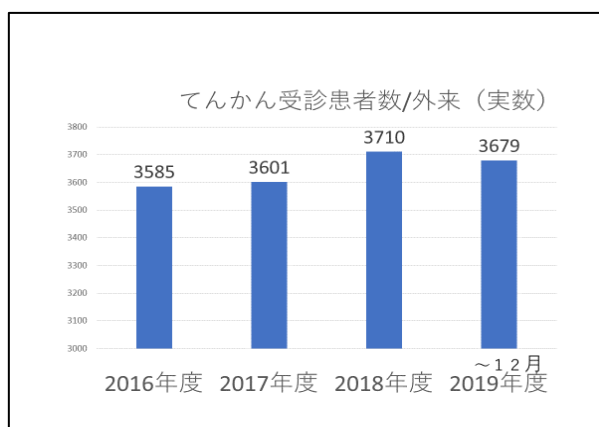
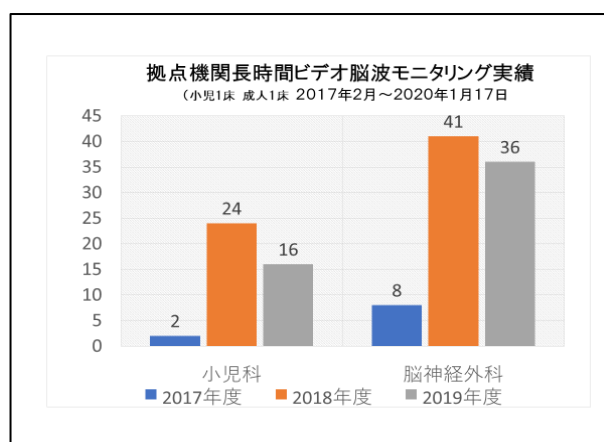
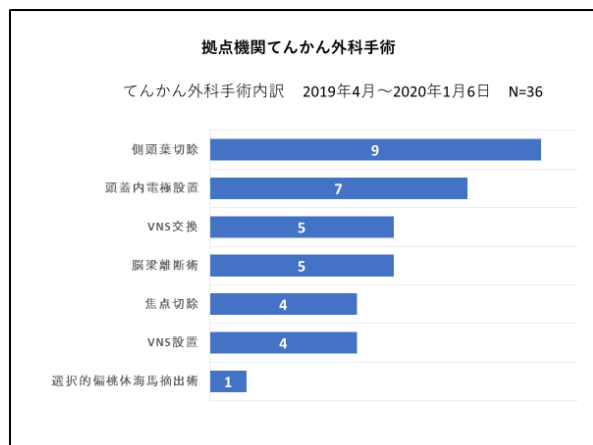
拠点機関内での取り組みとしては、1) 難治てんかんへの高度な治療の提供 2) 複数科からなる包括的な医療の体制の整備、3) 専門医・コメディカルの育成、4) 基礎、臨床研究・治験の推進、等を行ってきた。また対外的には、1) てんかん診療に関わる医師、政令市、精神保健福祉センター、医師会、労働局、SW、患者、家族等をメンバーとしたてんかん医療・社会連携協議会の運営、2) 一般の県民に向けて普及啓発活動、3) 県、政令市等とタイアップした行政職員、労働局、施設職員等へ向けての研修、4) ポスター、パンフレット、チラシを用いた拠点事業の周知、5) 病院やてんかんセンターHP、行政の広報メディア、その他新聞やラジオ等を通じて、拠点事業やてんかんセンターに関する情報発信、等を行っている。

この2年間の活動により、聖マリアンナ医科大学病院のてんかん診療拠点としての認知は県内外で進んでおり、神奈川県におけるてんかん拠点機関事業の成果は見えつつある。しかし、未だ人口に比して専門医が少なく、かつ偏在しているという現状は変わらず、拠点機関より地理的に離れた地域に関しては、てんかん医療が行き届いていない部分も多くある。ゆえに今後も、県内の医療連携体制の構築に力をいれ、てんかん患者が適切な医療を等しく受けられるような環境を整備することが引き続きの課題となる。また、てんかん専門医をはじめ、てんかん診療に関わる医師の絶対数を増やして行くために、その育成、サポートにも力を入れていく必要がある。

2. てんかんセンター診療実績

1) てんかん外科手術、2018年度46件、2019年度(4~1月)36件。2) 長時間ビデオ脳波モニタリング、2018年度65件、2019年度(4~1月)52件。当院てんかんセンターでは、施設、人員等に限りがある中、てんかん外科手術、長時間ビデオ脳波モニタリングをコンスタントに実施し、今年度は前年と同ペースか、やや凌ぐほどの実績となっている。3) てんかん受診外来患者数(実数)、2016年度3585人、2017年度3601人、2018年度3710人、2019年度(4~12月)3679人。てんかん受診患者数はてんかんセンター稼働年以降順調に増え、今年度は更に数を増やしている。4) 紹介患者数、2018年度383件、2019年度(4~12月)334件。紹介患者に関しては、拠点機関の認知が高まるとともに数を増やし、紹介元の地域も徐々に県内の広範囲にわたってきている。5) てんかん相談件数、2018年度100件、2019年度(4~1月)199件。聖マリアンナ医科大学病院てんかんセンターでは、専任のてんかんコーディネータによるてんかん相談窓口を開設している。相談件数は、てんかん診療拠点機関としての認知が高まると同時に増えていき、県内のみならず、県外各地からもあらゆる相談が寄せられる。相談者の居住地をみると、県央、県西地区など、てんかん医療の過疎地からの相談がかなり増えており、てんかんの専門的な診療が充分に行きわたっていない地域のニーズ

が発掘されつつある。てんかんセンターのマンパワーの問題もあり、拠点機関へ集中しすぎる受診希望者の調整もコーディネータの役割となっている。人口が多く県の面積も広いと、拠点機関に患者が集中しすぎると、診療待機期間の伸長や、距離的な受診の不便さも生じてくる。拠点機関以外で診療を行っている専門医やてんかん診療に積極的な医師の情報を提供することにより、少しでも診療待機期間を減らしたり、患者さんがより通いやすい場所で専門的な診療を受けられるよう、意識して対応を行っている。



3. 啓発活動

神奈川県は11の二次保健医療圏が設定されており、その中でも県央、県西、横須賀・三浦、湘南、等は特にてんかん医療が行き届いていない地域とされていた。そのため事業開始当初から、県内で偏りなく啓発活動を行っていく事を意識し、計画してきた。現在まで、拠点機関のある川崎市をはじめ、横浜市、相模原市、県西地区の小田原市、横須賀・三浦地区の横須賀市、湘南地区の茅ヶ崎市、等広い範囲で公開講座を開催・企画している。啓発活動の一環として行ってきたパープルデーも、今年度で4回目の実施を数え、公的機関の媒体を使用し広報を行うことで、てんかんへの関心を広く集めている。

また、整備事業が本事業となった2018年度より、てんかん診療に関わる医師をはじめ、政令市、精神保健福祉センター、医師会、労働局、SW、患者、家族等てんかんに関わる幅広い分野の代表者をメンバーに加えた「てんかん医療・社会連携協議会」が新たに発足した。今年度も引き続き定期的に協議会を開催し、積極的な意見交換が行われている。継続して活動をする事で互いの結びつきを強化し、神奈川県・川崎市・神奈川県労働局とタイアップして、それぞれの機関の職員へ向け、研修を行う事が可能となった。患者の抱える問題への対策は、医療だけではカバーしきれないため、生活支援、

就労支援等に携わる専門職員への知識の普及は、てんかん患者の生活の質の向上への一助となる。また、12月に厚生労働省てんかん地域診療体制整備事業の一環として、厚労省、NCNPの協力の元「てんかんと就労を考える」をテーマに啓発活動を行った。神奈川県内を本拠地とするラグビーチーム「三菱重工相模原ダイナボアーズ」の選手でキャプテンを務める土佐誠選手(てんかん手術経験あり)より応援メッセージをもらい、来場者から好評であった。市民公開講座は年々参加者が増え、150名から200名弱の来場者がある。専門職対象の研修会も毎回100名程の参加者を集めている。

てんかんの研修会 参加無料 定員200名

市民公開講座 13:00~16:30 開場 12:30

【啓発講座】 啓発てんかん患者の地域診療体制整備事業

開催日 2019年3月24日(日)

場所 小田原駅前センタープラザホール

協賛 山本 仁

13:00~13:30 座長 本郷 一博

13:30~14:10 研修1 講師 橋本 聡子

14:20~15:20 研修2 講師 橋本 聡子

15:25~16:25 座長 山岸 光彦

講演2 講師 北条 隆

【お申し込み】

お申し込み先: 日本てんかん学会関東甲信越地方会

TEL 044-977-8111 (09:00-18:00)

Purple Day Everyday

てんかんホールライトアッププロジェクト in Kanagawa

神奈川県内の4つの施設にてんかんホール(3月26日) 05:00~21:00 (18:00まで)

平成31年 3月22日(金) ▶ 26日(火)

【お申し込み】

お申し込み先: 日本てんかん学会関東甲信越地方会

TEL 044-977-8111 (09:00-18:00)

てんかんの研修会 参加無料 定員200名

市民公開講座 13:00~16:30 開場 12:30

【啓発講座】 啓発てんかん患者の地域診療体制整備事業 (完全予約制)

開催日 2019年12月1日(日)

場所 神奈川総合社会福祉会館7階ホール

協賛 山本 仁

13:00~13:45 座長 本郷 一博

13:45~14:30 研修1 講師 橋本 聡子

14:40~15:30 研修2 講師 橋本 聡子

15:40~16:25 座長 山岸 光彦

講演2 講師 北条 隆

【お申し込み】

お申し込み先: 日本てんかん学会関東甲信越地方会

TEL 044-977-8111 (09:00-18:00)

てんかんと就労を考える

てんかんと就労に関する講演とパネルディスカッション

日時: 12月22日(日)

10:00~12:30 (開場9:30)

会場: 川崎市コンベンションホール

参加費: 定員200名

協賛: 山本 仁

10:00~10:45 講演1 講師 橋本 聡子

10:50~11:45 講演2 講師 橋本 聡子

11:50~12:15 パネルディスカッション

【お申し込み】

お申し込み先: 日本てんかん学会関東甲信越地方会

TEL 044-977-8111 (09:00-18:00)

てんかんがあっても働きたい!

就労支援者のための

てんかんの研修会

日時 令和元年 7月24日(水) 14:00~16:30

場所 ハローワーク横浜港労働出張所

14:10~15:00 研修1 講師 橋本 聡子

15:15~16:05 研修2 講師 橋本 聡子

【お申し込み】

お申し込み先: 日本てんかん学会関東甲信越地方会

TEL 044-977-8111 (09:00-18:00)

知れば役立つ!

基礎知識から最新情報まで

てんかんの研修会

日時 令和元年 11月6日(水) 14:00~16:30

場所 横浜情報文化センター 博文ホール

14:10~15:00 研修1 講師 橋本 聡子

15:15~16:05 研修2 講師 橋本 聡子

【お申し込み】

お申し込み先: 日本てんかん学会関東甲信越地方会

TEL 044-977-8111 (09:00-18:00)

支援者のための

参加無料 定員200名

てんかんの研修会

日時 令和2年 1月29日(水) 14:00~16:30

場所 川崎市医師会館 3階ホール

14:10~15:00 研修1 講師 橋本 聡子

15:15~16:05 研修2 講師 橋本 聡子

【お申し込み】

お申し込み先: 日本てんかん学会

TEL 044-977-8111 (09:00-18:00)



4. その他拠点機関や県内の専門医らによる取り組み

拠点機関の役割として、複数診療科による集学的治療の体制を整備することは重要な事項である。院内では、1) 医師、看護師、コメディカル等あらゆる職種をメンバーとするてんかんセンター運営委員会(3か月毎開催)、2) 複数科の医師、コメディカルが参加するてんかん症例カンファレンス(週1回)、3) 小児神経班主催のミーティング・カンファレンス(月1回)、等を行っており、てんかん診療に関わる複数の職種の職員が集まり意見交換やスキルアップを行う場を多く設けている。院外ではてんかん診療に携わる複数の医療機関の医師が参加する、難治症例に関するカンファレンスを月1回程度開催している。

5. 今後の課題

今年度、厚生労働省科学研究(山本班)による「てんかんの地域診療連携体制の推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究」が採択され、全国の拠点機関の代表者等による研究が現在進められている。今後全国で拠点病院の数を増やし、質をより高めていくために、研究の成果を上げ、神奈川県内の拠点機関としては、引き続き県内のてんかん診療連携体制の強化を進めていく。